

裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年5月11日(月)

# みんなの居場所

### 【徒然】

日曜日はPTAの環境美化作業だった。PTAというよりはむしろ地域の「一言」の方がかつた。小学校が地域の宝物であり、とても大切にされているところを改めて感じる機会があった。私も地域の「一言」に参加してこの日もだが、どなたか役に立つこともあるか...。縁あって府本小で仕事をさせて頂いている。府本地域のために自分に何ができるかを常に考えていきたいものだ。

### 【教職の現場で大切にすること】(再掲)

次の言葉は、お世話になった校長先生の言葉です。今でも仕事人として大切にしている教員です。その理由が、相手があるところの教職の現場において、子ども達を保護し、地域の方々と連携し、教育効果を上げていくための「最低限守るべき事」をまとめた言葉だからです。教師だけでなく、大人が守るべきルールだ。子ども達に行動を示す必要が求められます。

#### 【時を守り】

時間を守ることは、社会人として最低限守るべきことだ。感じています。相手の時間を奪うことは許されません。大人は「時間を守る」といいますが、我々が権を正すには、指導した人の説得力に差が出てしまいます。

#### 【場を整える】

学習環境を整えることは、子ども達の学習に対するモチベーションを高めます。目の前には綺麗に整えられた教材が並び、机は「掃除の日」に綺麗に拭かれています。「家庭では如何でしょうか。無駄なものを整理整頓するのは、仕事や勉強の効率を下げるための一番の近道だと思っています。かゝることは私に整理整頓が大の苦手ですが...

#### 【礼を返す】

社会人として働く場合、目の前には人がいます。私達教師の仕事は、児童生徒、保護者の信頼がかけられています。私達教師は子どもや保護者の信頼の重みを背負っています。最高のパフォーマンスを提供しなければなりません。それが相手に対する礼儀だと思います。責任でも負います。学校での場面だけでなく、人とのつながりの中で、相手を尊重し、礼節を重んじた接し方ができれば、多くの問題は回避できそうです。こういった意味から「礼を返す」ことは大切なことです。

#### 【相手の立場を考慮】

これは、最近になり追加したことです。それぞれポジションで仕事をこなしている中で、どうしても自分の立場が多々、失敗の原因になりがちです。

#### 【尊敬し、謙遜し】

これについても私が追加したものです。このことを忘れず、人間としての成長はあります。お陰様で自分が成長を遂げて頂いていることを忘れずにいたいと思います。

このように、私は自戒の意味で、大人として、垂聴を怠らぬこと、口を閉ざしてしまいが、中々いまいちがちなこと。

### シリーズ「自分を語る」#の6

世界各国の熊本県人会には「子息は日本に、懸け橋にすべし」と日本語を話せるように、定期的に交流を促しているようです。特に「ニッポンの熊本県人会」は歴史も古く、会のエッセンスは始まった日本語を話せることです。お陰で「ニッポンの熊本県人会」の留学生と研修員は「コミュニケーション」の研修が始められました。

県費留学生は、1年5ヶ月の学習を進めます。1名は熊本県立大学、1名は熊本県立大学で学習してました。そのうち「ニッポンの熊本県人会」に所属し、日本語を勉強して来たため、日本語が堪能でした。しかも、彼は母国語のポルトガル語、日本語の他に、英語も話せていた。当時のTOEICスコアは800点前後。O(合格)を取ったという程のスキルがありました。正に世界を股にかけている人材でした。私は「言葉は、英語に興味はありますが、使っているシーンがないです。国際関係は時代は多少英語の勉強もしていますが、今は全くありません。

県立大学の留学生の専門分野は「企業等のマーケティング戦略」でした。学習内容を県立大学の教授に教える立場でしたが、専門用語が多く聞かなくなりました。また、熊本大学の留学生は「ネットワーキング技術とWebプロモーション」でした。これは同様です。留学生の学習に関する聞き取りは、大学の先生の専門用語に打ちのめされた気がしました。

唯一、私が非常に興味を持ち、且つ面白く感じたのは技術研修員の方でした。彼の名前は西坂幸平、ニッポンの口腔外科医です。幸平の主な研修先は、熊本県中野商店街近くの「伊東歯科」です。九州でも有数の口腔外科設備を誇る歯科医院です。口腔外科手術を行うため、入院施設も完備していました。この歯科医院に視察に行った時、真先に院長室に案内されました。院長先生は術衣姿で、何となく手術が終わったという顔でした。その手術について早速説明を受けました。

「事故で顎を強打した患者さんで、明らかな骨折でした。そのままは骨折した部分の歯が抜け落ちる可能性があるため、強制的に歯を抜いた上で顎関節をステープルで止めて、その後抜いた歯を再度移植するといった手術です。」

またまた、簡単に話したのですが、実際のレントゲン写真を使って説明していただき、リアル感が違います。その後、手術室にも案内されました。「本物だね」と子どもたちが叫び声を上げたので、院長先生は「これは国際研修員さんにとっては、これくらいの手術がめんどいからね」と言われました。

「はいですね、外来の患者さんへの診察があるんですけど、手術の曜日が決まられているから、多くは「ローテーション」の例でいっていいでしょうか、ただ歯は毎日でも受け入れられます。今日の手術はいいですね。」

一応、国際研修員さんについて、それらしい質問をしてみますが、専門家からすれば素人の質問なので、すべて丁寧に笑顔で答えてくれました。

口腔外科技術は日進月歩が進んでいます。下顎関節炎(いわゆる顎の痛み)等々、外科的手術なしでも治療が可能(個人によって違いますが)です。医療の進歩は凄いですね。(〇〇〇)